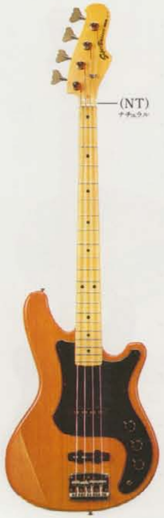
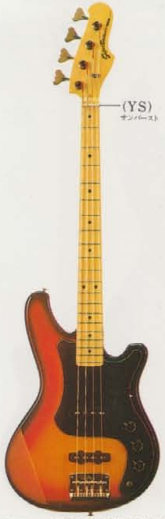
SB-600

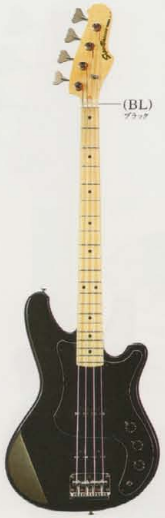
8ポールピースピックアップが
ボディサウンドを確実にカムアウト
ナトーボディならではのヘヴィパンチを
思うがままに繰りだす
ファンクなソリッドベース
マイク＝(前)8ポールピース・シングルボビンS-I×1(後)8ポールピース・シングルボビンS-II×1
胴—ナトー/棹—メープル
指板＝メープルワンピース
胴・棹—デタッチャブル
糸巻—フラワーペダル型
弦—H4020/重量—4.3kg
¥60,000

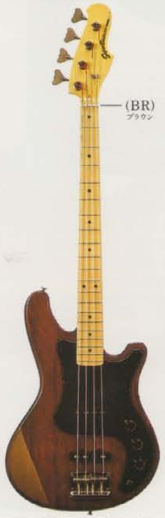




SB-500

ナトーボディに
ダイキャストブリッジをマウント
ずしんと響く重低音を武器に
豪快なベースランニングで迫る
SBシリーズのスタンダードモデル
マイク＝(前)8ポールピース・シングルボビンS-I×1(後)8ポールピース・シングルボビンS-II×1
胴—ナトー/棹—メープル
指板＝メープルワンピース
胴・棹—デタッチャブル
糸巻＝フラワーペダル型
弦—H4020/重量4.3kg
¥50,000





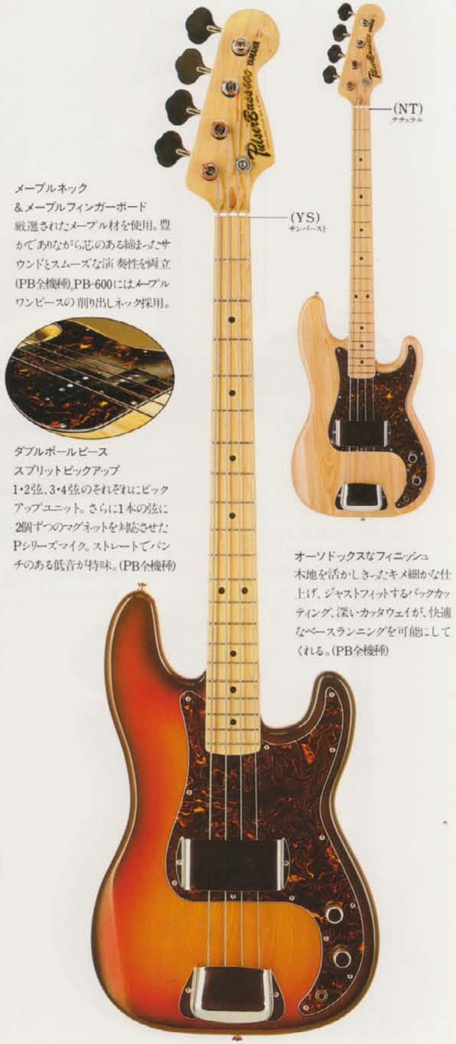
PB

メープルネック、センボディ
躍動感あふれる低音はパワフル&ストレート
ロックサウンドにスピリットを吹き込む
PBシリーズ

メープルネック
&メープルフィンガーボード
厳選されたメープル材を使用。豊かでありながら芯のある締まったサウンドとスムーズな演奏性を両立(PB全機種)。PB-600にはメープルワンピースの削り出しネック採用。

ダブルポールピース
スプリットピックアップ
1・2弦、3・4弦のそれぞれにピックアップユニット。さらに1本の弦に2個ずつのマグネットを対応させたPシリーズマイク。ストレートでパンチのある低音が特味。(PB全機種)

オーソドックスなフィニッシュ
木地を活かしきったキメ細かな仕上げ、ジャストフィットするバックカッティング、深いカッタウェイが、快適なベースランニングを可能にしてくれる。(PB全機種)

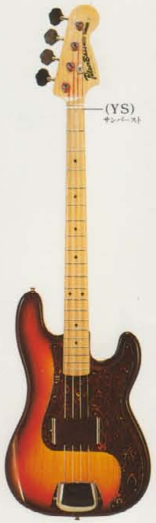

(YS)
サンバースト
(NT)
ナチュラル

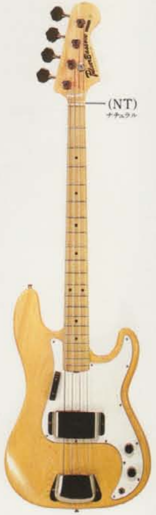
PB-600

スプリットピックアップからは
分厚く立ちあがりのよい唸るような低音
入念に削り出されたセン単板ボディ
メープルワンピースネックのフィット感も
素晴らしい待望のハイグレードモデル
マイク—Wポールピース・スプリットタイプP-I×1
胴—セン単板/棹—メープル
指板—メープルワンピース
胴・棹—デタッチャブル
糸巻—クローバーリーフ型
弦—フラットワウンド
重量—4.0kg/¥60,000

PB-400

オーソドックススタイルのボディに
高感度ピックアップを搭載
音量感たっぷりの太い低音が
ベースランニングをきわだたせる
躍動感あふれた本格ソリッドベース
マイク—Wポールピース・スプリットタイプP-II×1
胴＝セン/棹＝メープル
指板—メープル
胴・棹＝デタッチャブル
糸巻—クローバーリーフ型
弦＝フラットワウンド
重量—4.3kg/¥40,000





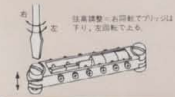
Q：楽器としてよいエレキの条件とは？　A：特に重要なのが次の7ポイントだ。①ネック反りやフレット音痴がなく、糸巻がしっかりして、音程やチューニングがぴたり合うこと②ストラップを肩から吊った状態や膝の上に置いた状態で、ヘッド側とエンド側の重量バランスがとれていること③フレットや指板が滑らかに仕上げられていること④ネックの太さや形が自分に合っていること⑤弾いてみて音がよくのびること⑥特に1弦のハイポジション（6弦やポジションによる音色、音量、サスティンのバラつきがないこと⑦出力レベルが使うギターアンプの入力感度と合っていること。

CHECK & CARE かけがえのない愛器のために

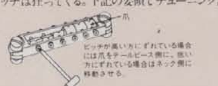
Befor Play

●弦は死んでいないか
〔弦の交換は早めに〕弦のび、サビつきはクリアーサウンドの大敵。音質劣化はどんどん進んでいる。〔弦の交換は1セットごとに〕1弦ごとの張り替えは、他弦とのバランスがとりにくく、ハーモニックスに悪影響。6弦全部を同時に替えるのがベスト。

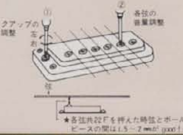
●弦高(弦とフレットの間隔)は適正だろうか
弦高が高すぎて弾きにくい、弦がビリついて音が伸びない時は次の3ポイントをチェック。●上駒の高さ●ブリッジとテールピースの高さ●ネックのそり


右
左
弦高調整＝右回転でブリッジは下り、左回転で上る。

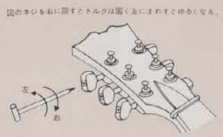
●オクターブピッチ調整は完璧だろうか
弦を張り替えたり、弦高調整を行なうとオクターブピッチは狂ってくる。下記の要領でチューニング。


爪
ピッチが高い方にずれている場合には爪をテールピース側に、低い方にずれている場合はネック側に移動させる。

●ピックアップバランスはとれているだろうか
弦がピックアップをこすらず、ピッキングに影響しない範囲で、ピックアップは可能な限り弦へ近づける。


①
ピックアップの高さ調整
左
右
②
各弦の音量調整
弦
★各弦共22Fを押えた時弦とポールピースの間は1.5～2㎜がgood！

●糸巻は適度なトルクに調整されているだろうか
演奏中のチューニングの狂いをミニマムに抑えるために糸巻の回転トルクは少し固目に調整しよう。


図のネジを右に回すとトルクは固く左にまわすとゆるくなる。
左
右

After Play

●プラグの脱着
プラグを抜くとき、強引に引っぱってはならない。

●クリアー
弦やフィンガーボードの手あかや湿気を乾いたクロスでふきとり、大敵のサビから完璧なガードを。

●キープ
湿気はギターの響きを殺し、直射日光はそり、ゆがみ、ひび割れの原因。保存はギターケースに入れて。

All Days

●ベルトのバックルや金属ボタンなどは、演奏時には避けよう。かけがえのない愛器を傷つけるもとだ。

●ギターの塗装、特にラッカーフィニッシュの場合、長時間ゴムやビニールに接触していると、化学変化を起こすことがあるので十二分に気をつけよう。